

HPV ヒトパピローマウイルス ワクチンの接種を

おすすめします

HPVワクチンは、他のワクチンと比べて特別に重い副反応を起こしやすいわけではなく、厚生労働省もWHOもHPVワクチンの安全性を担保しています。また、世界80か国もの国と地域で承認されている、「9価HPVワクチン」という新しいワクチンが2023年4月より日本でも無料接種可能になりました。9価HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるHPV型の9割近くの感染を予防できます。



そもそも、子宮頸がんって??

女性の子宮の入り口付近にできる「がん」で、日本では20~40代の女性を中心に毎年約1万人が子宮頸がんと診断され、年間約3,000人が亡くなっています。また、9割近くの患者が子宮摘出等の手術や抗がん剤治療が必要になり、子どもを産むことができなくなる方も少なくありません。

20歳をすぎたら子宮頸がん検診を受けましょう。

約8割の女性が一度はHPVに感染

年間約1万人が新たに診断

20~40代女性に多い



検診では異常が出てからしか見つけられません

HPVワクチンの公費助成



無料

HPVワクチンは「小学6年生～高校1年生の女の子」は無料で接種できます。2・4価ワクチンに加えて、9価ワクチンも2023年4月から定期接種となりました。1・2回目を2・4価ワクチンで接種した方の3回目接種は、原則同じになります。ただし、医師と相談したうえで9価を選ぶことは可能です。9価ワクチンを受ける方は、15歳の誕生日までに一回目の接種を済ませた場合、接種回数は2回になります。



1997～2007年度生まれの女性
は2024年度まで特例で

無料接種
できます

お早め!

1997～2007年度生まれの女性で、打ち逃してしまった人は、2024年度まで特例で無料接種可能です。合計3回の接種が必要ですが、1～2回接種したあとに中断した人も、残りの回数を無料で接種できます。なお、2023年4月から9価ワクチンもキャッチアップ接種の対象になりました。1996年以前に生まれた女性も、自費での接種が可能です。なるべくお早めの接種がおすすめです。

男性に多い中咽頭がんや肛門がんもHPVの感染が原因の一つです。大切なパートナーを病気から守ることもつながります。



17歳までに4価のHPVワクチンを3回接種することで、将来の子宮頸がんの約88%を予防できます。



約88%
予防

17歳以上で4価のワクチンを接種することで子宮頸がんを約53%防ぐことが分かっています。9価のワクチンであれば更に高い効果と考えられます。このため、26歳以下の全ての女性に接種が進められており、27～45歳の女性も一定の効果が期待できます。



子宮頸がんのうち95%以上はHPVの感染によるものです。

95%↑

安全性が確認されたため2021年11月に積極的接種勧奨が再開されました。



HPVはとともありふれたウイルスで8割以上の男女が一生のうちに一度は感染しています。



当院では毎週月・火・金曜日午後、第2・4・5金曜日午前のみ婦人科診療を行っております。(予約制)

ワクチンの選択や接種のタイミングについては、医師にご相談ください。